

# アムスルだより

No. 100 2009年 11月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



## ●ようやく一人前？

### —移植サンゴの産卵—

朝晩はずいぶん涼しくなってきました。海水温も少しずつ下がってきて、今 25～26℃あたりを行ったり来たりしています。このまま冬になって、今年も終わっていくのだろうと思いますが、今年起きた大事なことを1つ、まだみなさんにご報告していませんでした。そこで今回は、遅くなりましたがその大事なご報告をしたいと思います。

いったい何かというと、ダイビング協会の人たちといっしょにマジヤノハマに移植したウスエダミドリイシが、この夏に産卵したのです。「そりゃ夏にはサンゴが卵を産むのは当たり前だろう」という人もいるかもしれませんが、そうではありません。そのサンゴたちは、生まれて初めて今年の夏に卵を産んだのです。

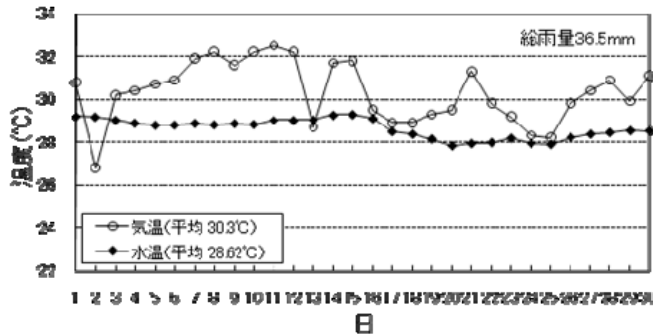
そのサンゴは、2006年12月に海底に移植したのですが、そもそもはその1年半前の2005年5～6月に研究所で卵から育てた幼生をタイルに付けて稚サンゴ

(サンゴの赤ちゃんのことです)にし、それを阿嘉港内のかごの中で大切に育てたものでした。たくさんの稚サンゴを作り育てるのはそれが初めてのことで、道具や方法を工夫しながら手探りでサンゴを飼育していました。小さな稚サンゴは、まわりに生えてくる海藻におおわれて死ぬことが多いので、海藻を食べるタカセガイをいっしょに入れて掃除してもらうようにしていましたが、最初のかごの網が細すぎて貝がはい回れなくて、あわてて底網を張り変えたり、稚サンゴたちが、突然はびこった成長の速い海藻やホヤの仲間やカイメンにおおわれそうになったので、タイル1枚1枚掃除したりと、心配の連続でした。それでも、1年もたつと3cmくらいに、そして1年半後には5～6cmにまで成長し、阿嘉・慶留間・渡嘉敷の人たちといっしょに200枚ほどのサンゴの育ったタイル(サンゴの数としては2000群体くらい)をマジヤノハマに移植することができたのです。

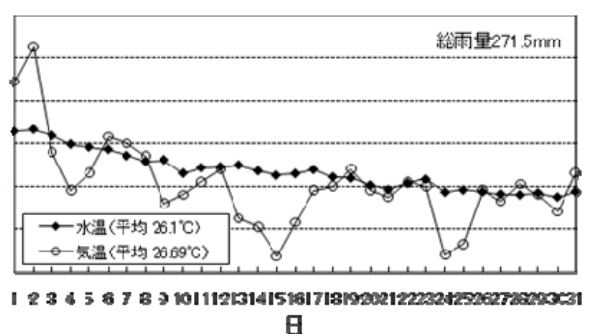
その後も、「大きくなったし、移植したからもう安心」というわけでは、もちろんありませんでした。突然サンゴの肉の部分をはがれて死んでしまったり(病気だろうと考えていますが、今でも原因は不明です)、ヒメシロレイシガイダマシなどの巻貝に食べられてしまったサンゴもありました。特にこの年のサンゴたちは、台風で網がからまってたくさんの群体が傷つき、また、動くはずがないと思

## 定点観測

2009年9月



2009年10月



って移植した大きな岩が横だおしになり、下じきになってしまったりして、たくさんの方々が災難にあいました。

それでも、生き残ったサンゴたちは少しずつ大きくなり、かごの中で育てているときは細くてきゃしゃだった枝ぶりも、だんだんと太くたくましさを感じさせるようになっていきました。そして、その枝々の間にはサンゴガニやエビやハゼたちが住み込み始め、まわりを泳ぐスズメダイたちが、何かに驚いては逃げ込むようになっていきました。その様子は、天然のサンゴと何ら変わりなく、移植サンゴたちもすっかりさんご礁の仲間に入れてもらえたみたいで、とてもうれしく思っていました。あとは、次の世代をつくるために、卵を産んでくれれば、もう立派なサンゴといえるでしょう。

そして、とうとうその日が来ました。今年2009年6月8日と9日の夜、直径30cm近いいくつかの移植サンゴから、ポツリポツリと赤い卵のかたまりが産み出されたのです。これは、ウスエダミドリイシが生まれて4年ほどで卵を産めるようになるという大切な証拠ですし、人が卵から育てたサンゴが産卵したことは世界的にも数例しかない貴重な出来事です。8日の夜は、ばたばたしてあまり感じなかったのですが、9日に静かに海中に産み出される卵をひとりで見てみると、かごやタイルを掃除したことやみんなで移

植したことなどが思い出されて、なにかしらほっとしたような、しんとしたような気持ちでした。

海の中には、来年以降に初めて卵を産む移植サンゴたちがまだたくさんいます。ぜひ来年はみなさんも海の中で移植サンゴの産卵を見てみてください。また、かごの中では今もたくさんの方々が育てています。このサンゴたちも、今後慶良間のさんご礁のために役立てられたら良いと思います。これからもみなさんのご協力をお願いします。

## ● 阿嘉島の海より

阿嘉島、慶留間島で9月24日から10月26日までおよそ1カ月間続いた隔日断水も台風20号のおかげでようやく解除になりました。ただし、12時間制限給水は今も続いています。この2年間、座間味村は少雨に悩まされています。このアムスルだよりでも昨年9月の93号、今年3月の96号、そして今号と、3度少雨に関する記事を掲載しました。これからまとまった雨量が期待しにくい季節に入るので、まだまだ心配です。

隔月で発行してきたこのアムスルだよりも今号でいよいよ100号となりました。1993年5月に第1号が発行されて、すでに17年目に入っています。これからも阿嘉島臨海研究所をよろしくお願いします。